

=====Mail from 中野=====2010-7-30=====

iPed

中野秀男（大阪市立大学）

日本では Apple の iPad の中国版として、iPed の話題が出ています。今回の中国上海滞在中に思っていて、荒木先生も頼まれていたようで、22 日の懇親会のあとで探しに行きました。最初にいった偽物ばかり売っているビルでは iPad のコピーがたくさん売られていて、私の情報では Windows 7 だと聞いていて、出された iPad コピー機は Andoroid でした。もう一カ所行ったまともな所では売っていませんでした。iPad は売っていたけど。

それで無錫に移動してから上海にいる松野さん(ですよね)に調べてもらって一軒あるという情報をもらいました。

上海に戻ってから杉田さんと魯さんと一緒にその店に行ったところ、まだ来ていないという事で魯さんに電話で連絡をとってもらいました。

で、おもむろに見せてもらったのは 10 インチと 7 インチ。なんと Andoroid が動きます。偽物ビルの iPad のコピーが iPed というものなのですね。画面はガラ状ではなくプラスチックのようでちょっと押さないと動かないようです。ちょっと買う気がしなくて買っていません。>荒木先生

で、上海のホテルでハッカーさん達とチャットしていたら

<http://www.geno-web.jp/Goods/GA10112820.html>

を教えてくださいました。販売店保証が一ヶ月というのがなんとも。

荒木先生、上記の URL を店長さんに教えてあげてください。この諸元で買う気があれば通販で買えそうです。私は Windows 7 でないので買う気がしませんでした。また魯さんは上海での店とコネクションが出来ているようで上海でも買ってもらえると思います。

=====Mail from 鈴木=====2010-7-30=====

中野先生

シャープの鈴木@暑く重い空気が月を覆う奈良、です。
中国では御世話になりました。

まず、茶々です。

> を教えてくださいました。販売店保証が一ヶ月というのがなんとも。

25 分以上は動作しそうなので、立派といえば、立派ですよ。

ところで、鈴木は iPad は Android だとばかり思っていたのですが、Windows7 版もあるのですねえ・・・

iPAD は箸より重くて私は片手では持てません。
机に水平に置くと、証明の写り込みで画面が見えにくく辛いです。

まだまだ人気で注文待ちのようですが、その大半が 3G モデルではなくて Wi Fi のみのモデルだとか、キャリアの今後の戦略が見ものです。

=====Mail from 増満=====2010-7-26=====

お世話になりました。

増満 工将（無錫天狗軟件開發有限公司）

皆様

普段から IT 業界については、私自身の製薬や金融、化学、半導体業界の経験から、「甘い！」とって嫌われているのですが、皆様のプレゼンや議論の内容を拝見し、そのご経験と教養に裏打ちされたメッセージは、むしろ 20 代の業界の若者にこそ聞いてもらいたいとの感を強く持ちました。

Ruby の世界は内弁慶といつも言っています。

実際に最近、某 Sier さんが乗り気でないために、日本が作った Ruby 試験の受験業者が、米国から進出してきた教育機関によって実施される見込みとなりました。

せっかく日本人がつくった Ruby の中国展開をよりによって米国系の教育機関が独り占めしようとしているこの件で某社の元会長様や、Ruby アソシエーションなど働きかけてきたのですが、結局 2 年近くしつこくお話をして、日の目を見ませんでした。

↓

http://www.comptia.sh.cn/courses_kecheng/ruby_peixun_ruby_association_certified_ruby_programmer.html

OSS という意味では、Ruby On Rails の試験を独自に立ち上げて日本と中国で独自に展開しようという話もありましたが、Ruby 系は教育に取り組んでおられる方から賛同を得られたものの、その方の関係する OSS 系の教育機関から横槍が入り、

実現に至っておりません。

日本はあきらめて現在は、インドの会社がつくった教科書を中国語に翻訳し、24 日の会にも参加していた日本語学校?英語学校?IT 教育学校を立ち上げた陳（日本名肥後、元 NHK 大阪勤務）女史とともに、塾みたいな小規模な Ruby 講座を今年中に立ち上げようとしています。

また、中国の Ruby 仲間が作った教育ポータル Compeng という Rails で作ったフレームワークがあって、それを利用して、Ruby と Sinatra の Web による教育も始めようとしています。

Ruby 関係の方々と交流してきて感じたのは、強い閉鎖性です。

こちらについては、「米国との交流は活発にしている」という反論をよく頂くのですが、アジア各方面との交流は昨年 RubyConfChina が端緒で、それ以前から Ruby を使って開発を行ってきた欧米系の会社に大きく遅れをとっています。

本来日本がリーダーシップをとれる IT 技術を、みすみす欧米系や中国系に渡しているわけです。

(上海のフランス系企業など 1 時間のエンジニアのチャージが 50 米ドルです!)

私は、そもそも 6 ヶ月中国語を学んでまた日本の外資系に就職する予定でしたが Ruby と出会い、開発者のまつもとさんと交流するに及んで、貯金が一銭もなくなるまで、中国で Ruby の普及をやろうと決心してきたので、今のふがない状況も自分の努力不足ではないか? もう忸しやれることはないか? お金はどうやって調達すべきか? コミュニティーの育成はどうするべきか? ということにばかり時間を費やし経営者としては落第の収益状況となりました。

このままのトレンドですと、来年早々無錫を引き払って、日本に逃げて帰ることになりそうですが、それでもまだ 6 ヶ月ありますので、ぎりぎりまで努力する所存です。

もっとも、日本に帰国するといっても、中国の法人はエンジニアを一人残し、運転費用は日本から私の給与から送るという計画です。一度始めたことは所期の目標を達成するまであきらめない所存で、中国人の若手エンジニアが Ruby のコミュニティに貢献できたと言われる日までがんばりたいと存じます。

なんだか悲壮感あふれる文章ですみません (モーパッサンが好きなので…)

SEA の皆さん、PANTA さんとお話させていただき、

改めて言葉 (自然言語) との格闘が必要だなと感じました。

エンジニアとしては新米ですので、とりあえず

ソシユールの研究で有名な川本茂雄さんの『ことばとイメージ (岩波新書 331 号)』を読み返しています。

大学で LISP を用いたコンピュータ言語学という講義を聞いた際に紐解いた本です。

あの頃はチョムスキーにはまったことを懐かしく思い出しています。

長々とすみませんでした。

皆様のご多幸を心より祈念しております。

また、上海、蘇州、無錫、南京、杭州など近辺にこられることがございましたら、ご連絡ください。いつでもツアーガイドをいたします。

涼しい風が吹く無錫の街角より

=====Mail from 岸田=====2010-7-28=====

チョムスキー (メールより)

岸田 孝一 (SRA)

増満さん wrote:

- > SEA の皆さん、PANTA さんとお話させていただき、
- > 改めて言葉 (自然言語) との格闘が必要だなと感じました。
- > エンジニアとしては新米ですので、とりあえず
- > ソシユールの研究で有名な川本茂雄さんの『ことばとイメージ (岩波新書 331 号)』を読み返しています。
- > 大学で LISP を用いたコンピュータ言語学という講義を聞いた際に紐解いた本です。
- > あの頃はチョムスキーにはまったことを懐かしく思い出しています。

懐かしい人の名前が出てきたので、ここだけに反応します。

川本茂雄先生は、いま IIJ の社長をしている鈴木幸一さんの大学時代の指導教官でした。その関係で、鈴木さんがまだ日本能率協会の編集者だったころに、川

本先生をお招きして SRA の社内で講演をしていただいたことがあります。

こちらの期待は、チョムスキーの変形生成文法についてのお話を聴きたいということだったのですが、実際の講演は「ことばとイメージ」についての解説に終始しました。アーティストとしてのわたし個人は、大変興味深くお聴きしたのですが、ほかのプログラマ諸氏は、なんとなく狐につままれたような顔をしていました :-)

言語学者としてのチョムスキーの業績については、田中克彦先生が書かれた批判的な評価に尽きるのではないかと思います。その後今日までの反体制政治評論家としてのエネルギー活動には大いに敬意を表さざるを得ませんね。本棚のどこかに、かれの政治評論3部作をまとめたものがあるはずなのですが、探し出すのは難しい。

そういえば、昨夜、浦東空港のホテルで Net Surf していたら、ニューヨーク在住の金平茂紀さんが書かれた「内部告発サイト WikiLeaks が史上最大規模のアフガン戦争秘密文書を暴露した」という記事が見つかりました。

http://www.the-journal.jp/contents/ny_kanehira/2010/07/wikileaks.html

「WikiLeaks が7月25日の夜に、アフガニスタン戦争に関する9万1731点（2004年1月～2009年12月）に及ぶ米軍の秘密文書を入手し、サイト上で公開した。世界の軍事史上、これほどの分量の秘密指定文書が漏出したのは初めてのことだ」とのこと。アメリカのジャーナリストはなかなかがんばっていますね。それに比べて日本のマスコミのだらしなさは！？

=====Mail from 増満=====2010-8-15 =====

上海 Bros にワークショップの記事が載ります

増満 工将（無錫天狗軟件開発有限公司）

38度の外気温が夕方の雷雨で下がりほっとしている無錫の増満です。

さて、上海では知られたビジネス誌 Bros 大橋記者が、

今回のイベントを次号で取り上げて下さいました。

記事に地名など性格じゃない点はすでに修正済みです。

不肖私が記事を執筆させて頂きました。

素敵な PANTA さんの写真が一面で取り上げられるという将に異色の IT イベント記事で、注目を浴びることと思います。

http://www.sea.jp/shanghai/etc/news_bros_1009.pdf

暑さの厳しい日が続いておりますが、皆様猛暑に負けることなく、

ご自愛ください。

「俺たちに明日はない」の精神で、私もがんばります！

<http://www.asahi.com/showbiz/music/TKY200910220327.html>

暑中のお見舞いまで

=====Mail from 幸地=====2010-10-7 =====

韓国 IT 事情に詳しい荒木先生と佃様に 1 つ相談があります。

先日、釜山ユビキタス都市協会から、釜山地域における
ソフトウェア・オフショア産業を活性化する方案を
講演して欲しいと依頼がありました。

=====Mail from 佃=====2010-10-7 =====

佃です

釜山周辺の事情には詳しくありません。

ただ、福岡と釜山の間は大容量の高速回線で結ばれていまして、福岡市や大牟田市などが日韓オフショア開発共同プロジェクトを推進している（いた）はずですが。九州電力がバックにいて、地元がそれなりに盛り上がったのですが、最近はちょっと静かですね。

そのあたりはすでにご存知だとは思いますが、荒木先生の方が詳しいのでは。

=====Mail from 荒木=====2010-10-11 =====

幸地 様、

横目で見ていると、韓国の国の規模と政府の影響の大きさが
韓国の特性を形成している主要な要因のうちの一つだと思われます。
国策で韓国全体がおおきく右に左に振れてきたと感じます。

例えば、大学の先生方も、それぞれご専門の分野があるのですが、
いつのまにか、バイオだの環境だのに関連した研究を始めたりなさっていた
ことがありました。

聞けば、BT, ET, などなど〇〇T ということでいくつかの分野が
国の重点的な研究開発の対象となり、それらの分野をやっていると
研究費を獲得しやすい、逆に、それらをやっていないと研究費が取れない
ということで皆さんそれらの分野にも手を出さざるをえないという状況を
だったようです。

また、IUC（情報通信大学校）というのが太田にできたのですが、
これが情報通信部（日本でいうと郵政省のような感じ）
所轄の私立大学ですが、情報通信部長（日本で言うとは郵政大臣）の
鶴の一声で設立されて情報通信部から大きな支援を受けていたそうです。
ところが、政権が交替すると、政府の組織も大きく変わり、
情報通信部がなくなり、ICUは存続できなくなり
以前からある KAIST（これも特別な大学。日本で言うとは通産省所轄

の大学です。日本だと大学は文科省の所轄で、他省庁所轄のものは航空大学校とか防衛大学校とかで特別な組織となり、学位も直接はだせないで、学位授与機構とかいう独立行政法人をつくったりしています。)に併合されましたが、いろいろと確執があるそうです。

韓国のアウトソーシングのことは、何も知りません。

以前、福岡と釜山との間に光ファイバが敷設されるので、出資した九州電力と連携して日韓のインターネット研究者／技術者のコミュニティを作って、それ以後ずっと交流をつづけております。一緒にやっている企業が、その時に、韓国のベンチャーが開発したアプリケーションソフトを日本に持って来たりしていました。出来合い(か、それに近いもの)で、すぐに使い物になるのを捜していたように見えました。

韓国は、ソウル一極集中ですが、その一方で、各地域の自己主張が強いので、釜山だけで何かやるには釜山独自の魅力や資源や特性だけでは不十分に思えます。

ここ数年、釜山市と福岡市とで交流を深めようという動きがありますが、市役所や地元財界主導で偉い人達が顔合わせしてセレモニーをやっているという段階にとどまっています。

一方、一般市民レベルでは、けっこう行き来がありますが、個人的な体験にとどまっています。

しかし、この一般市民レベルでの日常的な交流は、釜山まで船でも3時間という福岡ならではのものです、非常に貴重だと思います。空気感覚での付き合いができます。

以上、雑談でした。

=====Mail from 岸田=====2010-9-26 =====

上海・無錫・張家界 WS 参加者各位；
(Cc to SEA Board ML)

きしだ @ Home Office です。

8月の末に、ソフトウェア・メンテナンス研究会の会合の準備で`Software Maintenance" と "Immaterial Labor" をキーワードにして Net Surf をしたら、おもしろいエッセイをみつけました。

Art Pulse Magazine という Web 雑誌に掲載されたものです。

<http://artpulsemagazine.com/sustainable-art-practices-producing-art-in-the-21st-century/>

タイトルは :

"Sustainable Art Practices / Producing Art in the 21st Century"

筆者は Christiane Paul というその雑誌のエディタの1人.

環境問題の論議から始まったさまざまなシステムの Sustainability (維持可能性) の問題を現代芸術と絡めて論じているのですが、その中に :

Sustainable Art Practices, Web2.0, and Immaterial Labor

を論じたセクションがあります.

そしてそこで, Tiziana Terranova という英国の研究者が書いた :

“Free Labor: Producing Culture for the Digital Economy”

というエッセイが紹介されています.

Terranova draws upon Maurizio Lazzarato’s concept of “immaterial labor,” which he defines as the labor that produces the informational and cultural content of a commodity. Terranova argues that free labor on the Net—which includes activities such as building websites, modifying software packages, reading and participating in mailing lists, and building virtual spaces—is simultaneously voluntarily given and unwaged, enjoyed and exploited. This applies to the practices of Web 2.0, a term coined by O’Reilly Media in 2004, in particular. As a corporate concept Web 2.0 provides contextual “warehouses” that allow for the filtering and networking of content provided by users, whether photos (Flickr), videos (YouTube) or personal profiles (MySpace). One of the most problematic aspects of these social networking sites is the fact that users effectively grant extensive rights to the content they contribute, which raises interesting questions about authorship. Terranova suggests that the new “NetSlaves” are not simply a typical form of labor on the Internet but also embody a complex relationship to labor that has become widespread in late capitalist societies.

She sees free labor, an important element of the digital economy, as based in an experimental compromise between the historically rooted cultural desire for creative production (and self-realization) and the current capitalist emphasis on knowledge as the main source of value-added. This is not meant to say that new media art and art in the networked commons are ultimately not sustainable, since their participatory aspects involve free labor that in turn sustains the latest capitalist model. Depending on its concept and intent, some networked art has to involve free labor contributions but will not gain any profits (except for the long-term ones generated by sharing). Other art projects, such as etoy's corporate structure, intentionally play with the capitalist model of the digital economy. Yet others generate sellable art objects as by-products of their process. No matter which strategies will prove to be self-sustaining, art in the networked commons (and contemporary art in general) cannot avoid addressing the larger context of the sustainability of cultural production in information societies.

興味を惹かれたので Terranove 女史のエッセイをダウンロードしましたが、長文なのでまだ詳しくは読んでいません。

URL は :

<http://www.electronicbookreview.com/thread/technocapitalism/voluntary>